

海岸ごみ増加 340トン

県沿岸で回収された海岸ごみの総量が今年4月～10月末までの7カ月間で約340トンに上ったことが県のまとめで分かった。県などは本年度から海岸ごみ対策を強化、回収作業を増やしたことに加え、台風も相次いで接近。集計方法が異なるものの、前年度1年間の総量を大きく上回った。県は「大分の美しい海岸を守るため、県民一人一人ができることを考えてほしい」と呼び掛けている。

今年4～10月



県と市町村は本年度、重機を使ったごみの回収、処理作業を前年度の47カ所から88カ所に増やした。各種団体が連携したクリーンアップ作戦も展開。NPO法人や自治会、漁業関係者など計1万人以上が参加し、65カ所で清掃活動をした。その結果、重機使用の作業では272トン（前年度は年間で183トン）、クリーンアップ作戦では70トン（前年度のデータはなし）のごみを集めた。流木をはじめ、ポリ容器やプラスチック類、金属類といった人工物が多かった。

県は「県沿岸は周防灘や各団体が協力し、計1万人以上が65カ所でクリーンアップ作戦を展開。70トンのごみを集めた」。5月下旬、大分市の田ノ浦ビーチ

回収強化、台風相次ぎ

別府湾、豊後水道など異なる海域に面し、潮流も複雑でごみが漂着しやすい。台風通過後は流木などが目立ち、山、河川を含めた対策を進めなければならない」と強調する。

一方、台風で生じた大量のごみを除去するため、県がカブトガニの産卵場所の干潟に重機を入れ、環境保全に取り組むNPO法人から指摘されて作業を中止するという事態も起きた。県は「環境への配慮が足りなかった。関係団体と情報を共有しながら作業を進める」とする。

来年度以降も海岸ごみ対策に力を入れる計画。県廃棄物対策課の佐伯久課長は「海岸は産業やレジャーの場、生物を育む場など、さまざまな形で県民生活と密着している。美しい姿で後世に引き継げるよう多くの人の関心を持ってもらいたい」と話している。

(2014年11月7日朝刊21面)

大分県沿岸で回収された海岸ごみの総量が今年4月～10月末までの7カ月間で約340トンに上ったことが分かりました。

①本年度のクリーンアップ作戦参加を1万人とすると、1カ所当たりの参加人数は何人、1人当たりの集めたごみは何キログラムでしょう（小数点以下切り捨て）。

②本年度の重機使用の作業で集めたごみは、1カ月当たり何トンでしょう（小数点以下2位を四捨五入）。

③それは、前年度の1カ月当たりの何倍でしょう（小数点以下2位を四捨五入）。